



# 金曾木だより

台東区根岸4-16-22 TEL 03(3876)3701 FAX 03(3871)9507  
<https://taito.ed.jp/swas/index.php?id=1310218>

令和5年度 11月号  
台東区立金曾木小学校  
校長 細田 儀広  
令和5年10月31日

「自ら学ぶ子 思いやりのある子 たくましい子 自分のよさを伸ばす子」

## あなたは何世代？

校長 細田 儀広

この数年で、Z世代という言葉が一般的になりました。実用日本語表現辞典によると、Z世代とは「ジェネレーション Z (the generation Z) とも言い、世代を分類する言葉のひとつで、アメリカ合衆国を始めとする世界各国において概ね1990年半ばから2000年代後半、または2010年代の前半までに生まれた世代を指す。この世代は、インターネットやスマートフォンの普及により、情報技術の発展に伴うデジタル環境に慣れ親しんで育ったことから、デジタルネイティブとも呼ばれる。」と書かれています。あらためて調べてみると、現代社会を象徴する環境下に生きている若者の姿が見えてきます。

Z世代のように、当時の世相を象徴してつくられた世代に関する言葉は、これまでにいくつもあります。「戦中派」「団塊の世代」「新人類」「バブル世代」「ゆとり世代」等、私の高校時代の卒業文集にも先生の言葉の中に「新人類」という言葉がありました。

当時、「新人類」は周りの大人からすると、「何を考えているのかわからない」と言われていました。「最近の若者は…」この言葉は、昭和の古い時代から当時の若者が年長者から言われ続けてきた言葉です。私自身も若い頃言われましたが、今は逆に言う立場になっていることに、違和感や可笑しさすら感じます。こうしたジェネレーションギャップは、いつの時代にもなっても続いていくものかもしれません。

最近、テレビでも世代による違いを取り上げた番組が放送されています。「昭和」「平成」「令和」の名曲、当時の常識、非常識等、出演者も年代別に分かれています。バラエティー番組ですが、これはこれで、それぞれの世代がお互いを知る機会になっている気がします。違う世代の人が集まって、同じ目的に向かって活動することは、お互いの事を知り心の距離を近付けることにつながっているようです。

さて、令和5年度、金曾木小学校は創立120周年を迎えました。明治、大正、昭和、平成、令和と5つの時代の子どもたちが本校で学び、卒業して社会で活躍されています。今は孫がいて、祖父母になっている人、親になっている人、学生の人、今通っている児童、また、当時の学校や子どもたちの成長を支えてくださった保護者、地域の人たち、教職員。それぞれの立場で金曾木小学校の思い出がたくさんあることと思います。時代背景は違いますが、金曾木小学校で学び、この地域で育ってきたという思い出は皆に共通しています。

4月から、学校では様々な周年行事を通して、子どもたちに母校や自分たちが暮らす地域を愛する心を育て、将来を前向きに生きていこうとする態度を育ててきました。11月11日の創立記念式典は、その集大成だと考えています。学校は子どもたちの宝、地域の故郷です。金曾木小学校創立120周年の下、世代や立場を超え人と人をつなぐ絆が、さらに深いものとなることを祈念いたします。記念すべき年に、金曾木小学校の教育活動に携わらせていただいたことに教職員を代表して感謝申し上げます。これからも学校が皆さんの心の近くにある存在であるよう努めてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。